マオヤニ郷土誌（その２）

工藤浄真
利尻郷土史研究会々長
（〒097－03　北海道利尻郡利尻町仙法志字本町）

8.　金融機関

本町（マオヤニ）に店舗を有した金融機関としては、明治後半の仙法志信用購売組合、昭和初期の公益質屋、殖産無盡代理店（旧日比宅、現藤井幸男氏宅）があった。

その他は北海道銀行鬼脇支店からの出張営業や小樽百十三銀行鬼脇出張所、北海道拓殖銀行、稚内信用組合等漁業資金提供などがあったようだが詳細は不明である。類似のものとしては頼母子講、無盡などがあり個人的に水産仲買人もその機能をもっていた。

稚内信用金庫仙法志支店

戦後になって漁業経済の住民の地域経済活動に大きな影響を与えたのは、稚内信用組合の利尻島への進出であった。昭和25年４月になって営業地域の拡大を計り、その名称も稚内信用金庫と変更した。そして、昭和26年５月に沓形支店仙法志出張所を旧日比宅を借りて営業を開始した。次で、昭和27年連絡所となり、昭和29年11月に店舗を移転改装して、仙法志支店に昇格させた。店員５名の規模であった。当地の漁業経済活動に大きな影響を与えた事は事実であった。

当時は鮭漁が賑わいを見せ、40年代にかけてのスケソ漁の盛んになる昭和34年８月に新店舗を新築落成した。しかも、漁も次第に不振になり当地産業の将来を見込み、昭和40年10月に沓形支店に統合され、旧中島宅での出張営業を行う規模に縮小された。その後、沓形支店は利尻支店と改称され、仙法志へは利尻支店からの得意先出向営業が行われている。

9.　仙法志郵便局

郵便局の始まりは明治27年８月に仙法志開拓の父といわれた伊藤米八氏の子、磯八氏が初めて自宅に地域住民の便を計らうため郵便切手売捌所を設けたのに始まる。その後。同32年12月に郵便受配所となり、同35年３月20日に公認三等郵便局となった。また、同年12月に電信事務を開始し、同42年３月に現在の石倉氏宅地に局舎を移転新築させた。続いて、同45年１月に電話事務を始め、大正元年電話が設置された。各戸に電話が架設されたのは昭和５年２月で、郵便局に始めて交換台が設置された。架設の範囲は局舎を中心にして東西２㎞で、御崎ホッケ潤から政泊までであった。架設加入数は僅かなものであった。昭和51年７月の電話自動化によって、仙法志前に無人機器室が設けられたことによって、郵便局の電話事務が合理化され職員が９名となるとともに、電報も委託配達に変わった。さらに、昭和41年８月に廃止された信用金庫支店の店舗を買収し改築して現在に至っている。

歴代郵便局長

初代　伊藤磯八　創設時より
二代　宍戸時徳　明治の末期頃
三代　石倉良二　大正４年６月から
四代　石倉喜七　不明
五代　石倉寅夫　昭和30年12月から現在

昭和40年代から貯蓄業務に小口貸付制度（一口30万円）が施され、保健業務として貸付制度ができて小範囲ながら金融を取扱っている。これは全国を網羅する電算化となっている。郵便小包も大口化とともに郵便車による各戸からの集荷を行うようになった。

10.　治安と医療

(1)巡査駐在所

鬼脇分署仙法志巡査駐在所の設置は明治29年頃と考えられ、現在の裏町にあった。独立庁舎は明治34年早々に新築され、当時の巡査は相川岩太郎であった。明治40年になってから駐在所は旧仙法志支所前に移転した。更に場所を移転し現在地になったのは昭和35年の診療所の移転新築後のことである。建物の老朽化も甚だしく、昭和38年11月、同59年８月25日にそれぞれ改築された。大正15年６月に鬼脇分署が警察署に昇格したが、昭和17年11月に稚内警察署に統合された。同29年７月１日

北海道警察となり、同31年９月、利尻町の発足により沓形警察官駐在所の直接の管轄となり仙法志警察官駐在所に変更された。

明治から戦前に至るまでの警察事情は他村のような密売婦の取締りについての話は余り聞かないが、花札や宝引きによる賭博や商人に対する金のゆすり、たかりの横行、記録に残らないような事件の取締りなどがあった。賭博は冬期間にいたるところで行われ、繰り返し警察の手入れや鬼脇本署へ連行される者数知れずという程であったといわれている。しかしながら、警察官も様々で住民との融和を図る者、取締りの厳しい者、中間的な立場をとった者などがいた。「嫌われる警察、好かれる警察」とは何を意味するのかである。

大正中期の競馬大会の開催は賭博心理の表れといえないこともない。警察官のなかには退職して役場職員や鬼脇村長になった者がいる。

(2)仙法志診療所

隣村は遠く未だ道路もなく甚だ不便を極めていた時代であったから、病気患者が発生してもは検診を受けることが不可能であった。従って、地域住民の容易なる受診の便を図るために分割本村に戸長役場の設置と同時に、仙法志村診療所を開設したのが明治33年７月で、初代の医師は平野慶頼氏であった。当初の所在地は巡査駐在所の付近にあり好評を博していたといわれている。

明治43年11月、医師堀江東馬氏の時代に現在の警察官駐在所の隣り（山側）に移転新築された。その後、昭和35年に至るまでの50年間に13名の医師の交替があり、一時期には助手の医師も着手したこともあった。仙法志診療所は昭和34年４月に現在の公民館が経つ場所に建設され、同35年４月から渡辺宝之助を所長として診療を開始した。これは正式に利尻町国民健康保健組合仙法志診療所と称し、現在までとは形態を異にしたものである。診療所が建設された土地は古くは伊藤漁場番屋から合同漁業会社事務所、そして診療所、さらに公民館と建物が建てられてきた。渡辺医師は昭和38年９月に退任し、同39年11月、旧宗谷村から山口靖夫医師が着任し同55年病気で死去するまで診療を続けた。その後、着任の医師がなく、診療所は閉鎖され、職員も島内の診療所、病院へと各々転勤した。開業医としては大正初期と昭和初期に嶺岸、渡辺、木庭の各医師が短期間ながら現在の武田商店の地で診療していたといわれている。

(3)仙法志歯科診療所

戦後、学校道路沿いの民家を借用して日黒氏が昭和35年頃まで開業医として歯科診療にあたっていた。その後、５～６年間は歯科医師が空白となり住民の要望により沓形の歯科診療所から週２回の出張診療が昭和42年から開始された。場所は現在の理髪所の前である。歯科医師は三輪博久氏である。平成２年９月、利尻歯科仙法志診療所が新築落成し、週３回の出張診療が行われている。場所は本町の道路拡幅工事完了によって町に買収され空き地となった旧宝達理髪店跡地である。

11. 行政組織

現本町の名称は既に報告した通りである。の地域は一村の官公庁の各施設庁舎とそれに関係する人々が住む集落で漁村者は他地域に比べると少ない。従って、この集落は規模も大きく職種もまた多く、仙法志地域の行政の中心地として今日に至っている。しかし、それだけ関係者が多く不明な点も多い。本町地区に公民館、仙法志神社があることから、自治会独自の会館や神社をもっていない。

(1)自治会役員

歴代の部長、区長、自治会長、部落役員名簿は表の通りである。

・現在役員名簿

本町第一自治会

会　　長	茶谷　正義	木材販売業
第一班長	佐孝　友一	漁業（漁組）
第二班長	佐孝　恵三	漁業
第三班長	砂田弥二郎	
第四班長	五ノ治春吉	漁業
第五班長	工藤　　勉	漁業
第六班長	海老名孝之	仙法志中学校教員
第七班長	佐藤　　保	吉田産業
会　　計	石垣　純一	仙法志郵便局

本町第二自治会

会　　長	出ツ所増三	荒物商
第一班長	長谷川チエ	旅館業
第二班長	高橋　道三	漁業
第三班長	沢田　　治	漁業
第四班長	高橋　道治	漁業
第五班長	古川　宥法	僧侶

第六班長　中島　澄子　老人福祉寮
第七班長　本前　新一　利尻町役場
監　　事　峨家　靖夫　水産加工業
会　　計　工藤　　玲　僧侶

(2)公職者

当地区から選出された公職者氏名は次の通りである。

(イ)総代人

伊藤米八（明治24年の一年間）、真部亀吉（明治25年、同28年のそれぞれ一年間）坂口勝次郎（明治26年の一年間）、伊藤磯八（明治27年、後明治35年３月31日までの７年間）

＊明治35年４月１日仙法志村開村

(ロ)旧仙法志村会議員

西田松次郎（明治35年度～36年度まで、水産物仲買商　大阪出身）、平野良松（明治35年度～３期６年間　漁業）、築山謙太郎（明治35年～１期２年間　雑貨商　大阪出身）、小野一郎（明治37年～同39年11月まで　飲料店　秋田県出身）、三上吟一郎（明治39年11月～同42年度、呉服商、滋賀県出身）、砂田弥一郎（明治41年度、同45年度～昭和25年まで、運送業、愛媛県出身）、西尾正吉（明治41年度～１期２年間　商業　大阪出身）、能登亀吉（明治43年度～１期２年間　商業　大阪出身）、伊藤磯八（明治43年度～８期16年間　鰊定置業　青森県出身）、上田石松（大正15年度～２期４年間　水産物仲買商　大阪出身）伊藤内蔵之助（昭和３年度～１期４年間　漁業　青森県出身）、西尾喜太郎　昭和７年度～昭和９年６月　商業　大阪出身）、小中新吉（昭和９年６月～１年間　漁業　富山県出身）、中島五三　昭和７年度～昭和14年８月　料理店　石川県出身）、石倉良二　昭和11年度～１期４年間　郵便局　富山県出身）、井田鹿之助（昭和11年度～同12年11月：応召、昭和22年４月～１期、昭和36年４月～同37年10月　商業　福井県出身）、能登龍太郎（昭和11年度～同12年11月：応召　昭和15年４月～同22年１月　戦争責任で辞職　商業　軍人　大阪府出身）、西田熊三郎　昭和13年１月～同14年４月　水産物仲買人　大阪府出身）、宝達伊佐男（昭和22年４月～同32年５月、昭和36年～同37年10月　商人　富山県出身）、中川原捨三（昭和22年４月～同53年９月呉服商　滋賀県出身）、駒井島蔵　昭和22年４月～同36年５月　漁業　青森県出身）、

代	氏　名	就　任　年　月　日
初	秦　　豊一	明治35年４月～明治39年８月10日
2	三上吟一郎	明治39年８月11日～大正11年７月６日
3	西田松次郎	大正11年７月７日～昭和15年12月20日
4	西田熊三郎	昭和15年12月21日～昭和21年12月31日
5	中川原捨三	昭和22年１月１日～昭和23年12月31日
6	石倉　喜七	昭和24年１月１日～昭和24年12月31日
7	井田鹿之助	昭和25年１月１日～昭和32年12月１日
8	中島　勝三	昭和33年１月１日～昭和33年12月31日
9	不　明	昭和34年１月１日～昭和37年12月31日
10	井田鹿之助	昭和38年１月１日～昭和58年１月22日
11	茶谷正義(一)	昭和58年１月23日～現在
	長谷川松雄(二)	昭和58年１月23日～平成　年
12	出ッ所増三	平成　年１月１日～現在

表１　歴代部長区長自治会長

注　昭和52年１月から本町に二つの自治会に分割したが、自治会長は両自治会長を兼務していた。

役職名	氏　名	摘　　要
会　　長	西田熊三郎	水産物仲買業
総務部長	石倉　喜七	仙法志郵便局長
教化部長	常盤井武敏	仙法志神社神主
産業経済部長	加藤　喜一	漁業　仲買業
警防部長	長谷川与吾	旅館業、民生委員
衛生部長	駒井　重蔵	薬剤師
森林防火部長	小川伝次郎	漁業
銃後奉公部長	沢田　末松	後　仙法志消防団長
経理部長	山脇松之助	呉服商
第一班長	笹原　貞吉	後に海区調整委員
第二班長	安宅　善七	商店
第三班長	古谷　久吉	電業所
第四班長	内海龍之助	漁業
第五班長	常盤井武敏	後に選挙管理委員
第六班長	坂元　留蔵	商店
第七班長	駒井　島蔵	後村並に町会議員
第八班長	木谷常太郎	商店
第九班長	沢田　武松	漁業
第十班長	上田政太郎	後村会議員、仲買業
第十一班長	野本　吉衛	漁業　後農地委員

表２　仙法志部落会役員名簿　昭和17年２月１日現在

沢田末松（昭和22年４月～同25年４月　漁業）、竹田哲彦（昭和22年４月～同24年５月　僧侶）、大島虎次郎（昭和26年４月～同32年５月　漁業　石川県出身）上田政太郎（昭和30年～同32年５月　水産物仲買商　大阪市出身）、原崎竹治（昭和36年10月～現職　商業　富山県出身）、岡山勇（昭和49年10月～現職　商業　石川県出身）

(ハ)方面委員・民生委員

石倉良二（昭和７年～昭和11年）、遠藤萬治（昭和12年～昭和43年12月）、上田きよ（昭和12年～昭和22年）、長谷川与吾（昭和23年～昭和27年）中島八重（昭和23年～昭和34年）、常磐井武敏（昭和28年～昭和43年）、野本タキ（昭和28年～昭和34年）、土田義男（昭和43年～昭和55年）、高橋道司（昭和43年～昭和46年）、工藤良子（昭和46年～現職）、上木律子（昭和55年～昭和58年）五ノ治政江（昭和61年～昭和64年）

(ニ)利尻町社会福祉協議会評議員

工藤浄真、沢田ひとえ、茶谷正義、三盃良勝（平成４年～現職）

(ホ)学務委員・教育委員

石丸官三（明治33年～明治36年）、佐孝五作（明治33年～明治39年）、瀬藤貞吉（明治36年～明治40年）、上野常三郎（明治40年～大正４年）、小野一郎（明治41年～明治45年）、三上吟一郎（明治45年～大正８年）、後藤徳松（大正５年～大正９年）、砂田弥一郎（大正９年～大正12年）、岡部藤吉（大正９年～大正12年）、十倉郁（大正12年～大正14年）、近藤茂（大正15年～昭和３年）対馬栄六（昭和４年～昭和７年）、上田石松（昭和５年～昭和７年）、小中新吉（昭和５年～昭和10年）、湯銭定平（昭和７年～昭和12年）、石倉良二（昭和10年～昭和13年）、井田鹿之助（昭和12年、昭和27年～昭和35年）、支部純一（昭和13年～昭和17年）、能登龍太郎（昭和16年）、竹村海陸（昭和17年～昭和19年）、塚越一太（昭和19年～昭和22年）、工藤淳亮（昭和27年～昭和31年大島虎次郎（昭和27年～昭和31年）、砂田弥二郎（昭和35年～昭和42年）、石倉寅夫（昭和43年～平成４年）、工藤浄真（昭和59年～現職）

(ヘ)社会教育委員

中村浩（昭和29年～不詳）、武田豊作（昭和29年～昭和31年）、中島八重（昭和29年～不詳）、上田キヌ（昭和29年～不詳）、長谷川キクエ（昭和29年～昭和31年）、小林滝次郎（昭和31年～昭和39年）、武藤満成（昭和31年～昭和33年）、三ヶ尻藤子（昭和31年～昭和33年）、江藤透（昭和31年～昭和33年）、佐藤光吉（昭和32年～昭和38年）、中川原操（昭和32年～昭和47年）、古川善行（昭和37年～昭和44年）、安斉精輔（昭和39年～昭和45年）、能登礼文（昭和43年～昭和47年）、桧山義勝（昭和44年度～昭和48年）、石垣純一（昭和44年度～昭和48年）、三浦尚雄（昭和45年度～昭和50年）、砂田京子（昭和48年度～現職）、工藤浄真（昭和48年度～昭和60年）、沢田治（昭和50年度～昭和52年）、正部川晃巳（昭和50年度～昭和52年）、井田鹿之助（昭和52年度～昭和56年）、出ツ所増三（昭和52年度～昭和54年）、中川原智三（昭和56年度～昭和62年）、上木律子（昭和48年度～昭和52年）、中山至孝（昭和56年度～昭和62年）、伊東重治（昭和60年度～昭和62年）、本間清一（平成元年度～平成３年）、堀川七郎（昭和62年度～昭和64年）、中川原潔（昭和62年度～現職）、工藤玲（昭和62年度～現職）

なお、昭和52年度より発足した利尻町文化賞スポーツ賞選考委員会委員に正部川、砂田、工藤の各氏が選任されたが、後にこの制度は廃止されたまた、昭和40年後半から同50年中頃にかけて公民館審議委員会（総合研修センター含む）があり、後藤広作、武田芳親、岡山勇、砂田京子、上木律子、長谷川松雄の各氏が選任された。

(ト)利尻町博物館協議会委員

昭和53年に博物館開設推進委員会が設けられ、同55年に博物館が建設されると同時に博物館協議会も設けられた。当地区から選出された委員は次の通りである。

中山至孝（昭和55年４月８日～昭和63年３月31日）、工藤浄真（昭和55年４月８日～昭和61年３月31日）、中川原智三（昭和55年４月８日～平成２年３月31日）、小林伸光（平成４年４月１日～現職）

(チ)人権擁護委員

井田鹿之助（昭和53年～昭和56年）、長谷川松雄（昭和56年～昭和62年）、工藤浄真（昭和63年～現職）

(リ)選挙管理委員会委員

西田熊三郎（昭和21年～昭和31年）、常磐井武敏（昭和21年～昭和41年）、角玄龍（昭和21年～

昭和26年）、木谷精一（昭和29年）、下家勇（昭和26年～昭和31年）、木村正一（昭和54年～現職）

(リ)消防団及び消防委員会

消防団は時代によって幾度か改組され名称も変更されたが、その目的や活動内容には大きな差は見られない。当初の消防組は大正２年３月21日にお上田石松氏の提唱によって組織された青壮組に端を発して生まれたものである。当時のマオヤニは第三部として役員が選出されている。

組長鈴木幸三郎、副組長三上吟一郎、第二代組頭武田精作の氏名が判っているが他は資料不足により不明である。警防団長として、中島伍三（昭和10年10月～昭和14年８月）、佐孝友七（昭和14年８月～昭和18年）が選出された。

昭和18年後半に戦争体制整備の目的もあって、消防団は部落会の組織に組み込まれ、部長として部落会長の支配下におかれた。当時の消防部長は、長谷川与吾、日比吉之助がいた。戦後の昭和22年8月になって法の改正により仙法志消防団となり、本町自治会は第一分団となった。

団長は、沢田末松（昭和26年２月～昭和31年６月）、小川一郎（昭和31年６月～昭和32年10月）で、本部長は加藤金貞（昭和30年９月～昭和33年11月）であった。この三名はいずれも副団長から昇格したものであり、加藤氏は利尻町消防団発足時に副団長となった。

分団長　小川一郎、木谷精一

部　長　木谷精一、加藤金貞

上記の各氏は昭和31年の町村合併により、同32年10月に利尻町消防団本部が設置され、同33年11月15日に両消防団を統合し、新役員決定して発足し、第四分団となった。

副団長　加藤金貞(昭和52年３月まで)

分団長　板坂善司(昭和56年４月～同58年３月)

部　長　沢田正道、板坂善司

班　長　会沢　清、佐孝友一、小中利保、野本収一郎

上記の部長、班長は新消防団の発足時であり、その前後にも努めている。その後は班長名がなく部長名だけでになっている。

部　長　佐孝友一、蔦森清彦、五ノ治春吉、中村鉄也、原崎保、池端重一

以上の各氏がなっており、一部前後しているが大差はない。現在は次の部長である。

第一　上木登紀夫　第二　沢田誠一

昭和22年８月より法の改正により消防委員会が設けられて、次の委員が選任された。

井田鹿之助（昭和22年～昭和24年）、沢田末松（昭和22年～昭和24年、昭和38年～昭和46年）、駒井島蔵（昭和25年～昭和26年）、加藤金貞（昭和41年～昭和44年）、坂江健二（昭和45年～８月まで）

現在の利尻礼文消防事務組合は昭和48年度より発足し、議会議員３名を各町が選任している。設置が議決されたのは昭和45年10月であった。

戦前は現在の警察署の浜側にあった。漁組の倉庫を機械置場とし、戦後になって現在の佐孝忠雄氏宅の隣の旧安江呉服店の石蔵を使用した。戦前は不明であるが、戦後は詰所にも利用し、時には青年会館を借用したという。そして、昭和41年11月に利尻町消防団車庫はそれまでの石蔵の器具置場を取り壊し、その跡に新築した。二階に事務所を構え、職員平野明男氏が常駐した。さらに、消防署仙法志分遣所は現在地に昭和55年10月16日新築され、隣接して裏に詰所が新設された。

戦後まで、「火の見やぐら」は現在の天理教の裏の空き地にあり、貯水槽もここにあって本町に三ヶ所あった。思い出として、小川団長時代、当分団はカルケット分団と呼ばれるように資金がなく、演劇「白波五人男」等の興業をうったこともあったという。消防演習が近くなると、「手押し式ポンプ車」を引っ張る、ホースを速く出す、武藤常吉、茶谷末雄等機械係三人組は必死の活動振りだったといわれている。さはには戦後までの団長は資金を持たないと勤まらない一面もあり、集まる場所がないので、団長宅で反省等の祝宴が開かれたようである。

(ヌ)固定資産評価審査会委員

松田小夜治（昭和26年から）、坂江清一郎（昭和56年10月～現職）

(ル)公平委員会委員

砂田弥一郎（昭和26年９月～同32年９月）、坂江健二（昭和31年10月～同45年８月）、木村正一（昭和45年12月～同56年12月）、桂但蓮（昭和57年１月～平成元年３月）、三盃良勝（平成元年４月～現職）

(オ)農業委員会委員

明治の頃より仙法志農会というものがあり、農

事試作、品評会、風防林設置等を事業内容としていた。特に、凶漁期には養蚕、畜産等を奨励していたが、詳細は不明である。戦後の昭和22年7月に農地法改正によって農地委員会が設置された。委員は次の各氏で、本町自治会からは職業種の関係で少ない。

砂田弥一郎（昭和22年から1期間）、野本吉衛（昭和26年から2年間）、藤田勇（昭和32年から）沢田末松（昭和44年から3期間）

(ヲ)利尻町国民健康保健組合

この組合は旧仙法志時代の昭和17年9月に設立されているが詳細は不明である。町国民健康保健組合運営審議会委員は被保健者代表と公益代表の二者からなり、町長が議会の同意を得て選任している。この自治会からは次の者が選出されている。

茶谷正義（被保険者代表委員）、石倉寅夫（公益代表委員）、沢田末松（被保険者代表委員）、土田義男（現職）

茶谷、石倉両委員は25年以上委員としてその任にあって表彰されている。

(カ)保護司

中川原操、石倉寅夫の両氏は長年にわたる保護司として業績が認められ、表彰されている。なお、中川原氏は平成元年12月に死去し、石倉氏は現在もその任にあたっている。

(ヨ)利尻郡町村電気利用組合

島内各町村は昭和25年に電力増強を目的として各町村議員を以て同組合が創立された。何度か名称の変更がなされ、組織の運営に困難を極めた。

昭和43年に同組合は現在地に火力発電所を建設し、同47年6月1日、北電に移管した。

(タ)宗谷海区調整委員会委員

昭和25年8月に新法による制度により、この委員は漁業権を有する者の公選になった。

笹原貞吉（選挙による当選挙委員）、長谷川与吾（推薦による学識者）、井田定勝（昭和35年、当時一期）

(レ)その他

漁港審議会委員、統計調査委員、監査委員、明るい選挙推進委員、体育指導委員、保健推進委員等は既述の公職委員の兼任が多い。議会議員、教育委員、社会教育委員及び民生委員等がそれである。また、町企業体、広域行政組織による企業体は殆ど町議会議員の場合が多くなっている。従って、本町自治会関係者の場合は限定されていて極めて小数なので省略する。

12. 産業経済団体関係

(1)仙法志漁業共同組合

同組合については年報第10集掲載の政泊郷土誌で報告しているので、本報告では本町関係分のみ記述する。

明治32年に伊藤磯八氏が鬼脇漁業組合から分離独立させて新たに仙法志漁業組合を発足させたといわれている。

伊藤磯八（頭取　明治44年頃まで）、長谷川荘松（評議員　明治37年頃より大正年代まで）、長谷川藤一郎（幹事　大正初期数年間）

（既に発足していた「水産組合」は水産物の品質向上や共同販売等海産商人の団体と考えられる）

伊藤氏は上記組合の仙法志部長として明治37年から大正2年まで、長谷川氏も年代的に大差がないと考えられる。また、海産商人の西田、上田、西尾、能登、木村の各氏等は村経済に力が強かった。組合における本町からの役員は次の通りである。

砂田弥一郎（組合長　昭和14年9月～昭和18年組合長以前は理事）、小中新吉（組合長　昭和20年の一年間、昭和15年頃から理事）、井田定勝（組合長、町長退任後の昭和33年9月～昭和53年9月）、茶谷正義（組合長、平成3年～現職、昭和35年から理事）、山本国吉（専務理事　戦前～昭和34年頃）、駒井島蔵（理事　戦前～昭和34年頃）、野本吉衛（理事、昭和26年頃から）、池端重吉（理事　昭和35年頃から）、高橋道司（理事、昭和38年頃1期間、以前に監事、期間）、野本昭二（理事、昭和48年頃から2期間）、出ツ所増三（理事、昭和54年から4期、監事、昭和48年から2期山下敏雄（理事、平成3年から1年間、監事、昭和63年から1期）、大島虎次郎（監事、昭和26年～昭和34年頃）、笹原貞吉（戦後～昭和34年頃）、内海一治（監事　不明、昭和34年頃まで、特に参事）、宝達伊佐男（監事、戦後～昭和26年頃）、畠山敬次郎（監事　昭和60年から1期）、沢田治（監事、平成4年～現職）

昭和38年当時の役員は次の通りである。

組　合　長　井田定雄（昭和33年就任）

理　　事　池端重一（昭和35年就任）
理　　事　茶谷正義（昭和35年就任）
理　　事　高橋道司（昭和38年就任）
代表総代　茶谷末雄
総　　代　長田佐久見、茶谷明男、畠山敬吉、加藤正一、会沢喜代一、坂井福蔵
婦人部長　上田キヌ（初代、昭和32年発足）
副婦人部長　駒井ミヨ、中島ハル
貯金係　大島スギ
監　　事　原崎ミサオ
青年部役員　野本昭二、杉田博邦
青年部長　田原清（初代）、沢田治（昭和50年の1期）（昭和37年発足）

現在の役員は次の通りである。

組合長　茶谷正義（平成3年就任）
監　　事　沢田　治（理事欠員）
代表総代　蔦森　勝
総　　代　星田芳勝、杉田博邦、田中卓治、上木登記夫、嶋野一輝、飴田清、柴田勝男、沢田誠一、嶋野正春、中村章、三浦竜二、伊藤嘉
婦人部第一支部長　町村りき
婦人部第一副支部長　杉田晴子
婦人部第二支部長　大島りゅう子
婦人部第二副支部長　嶋野英子

この他に、資格審査委員、実行組合がある。

(2)マオヤニ森林防火組合

事務所所在地　利尻郡仙法志字マオヤニ森林防火組合（組合長宅）
設立認可月日　大正3年8月4日
森林面積　三百町歩
組合員数　105人
器具機械の種類及びその数量
　鋸十二丁、山刀八丁、鳶口六丁、鎌二一丁、石油空罐一七個
補助金及び下記年月日
　金四十四円、大正九年四月十五日
役員氏名
　組合長　石倉良二、副組合長　枡田与吉、伍長　池端多吉、田中由太郎、日比謙次、駒井直蔵、野本八二郎、能登藤吉、木村幸一郎、長谷川荘松、砂田弥一郎、中島伍三

各部落同様に昭和17年まで資料不足で不明である。

仙法志部落森林防火部
部長　小川傳次郎（昭和17年2月1日選任、昭和17年12月31日選任、昭和18年12月31日選任）

終戦時より戦後20年代は資料不足で不明であるが、次の役員が考えられる。

仙法志森林愛護組合連合会役員
連合会長、本町組合長　小川一郎
本町役員、後に本町組合長　駒井島蔵

小川会長20年代で駒井氏に変わって昭和40年代までと考えられる。現在は次の通りになっている。

第一組合長　畠山敬郎　第二組合長　沢田誠一

(3)納税貯蓄組合

昭和22年に発足した利尻町納税貯蓄組合は納税貯蓄の円活を図る為に字本町の戸数が多いことにより、四ツの単位組合に組織された。当初の単位組合の役員を揚げてみる。

第一組合
　組合長　遠藤万治、副組合長　笹原貞吉（25年間で退職）、理事　藤井又吉、伊藤惣吉、監事　宮本正則
第二組合
　組合長　加藤正一、副組合長　茶谷正一、理事　佐藤義春、監事　嶋野定五郎
第三組合
　組合長　石倉寅夫（25年間）、副組合長　駒井島蔵、理事　井田鹿之助、中島勇、監事　中島勝三
第四組合
　組合長　大島虎次郎、副組合長　上田政太郎、理事　板坂末太郎、茶谷末雄、監事　坂井福蔵、平山一郎

以上の役員は40年代に入っても欠員を補充する程度で余り変更はされていない。

仙法志納税貯蓄組合　25年連続完納、組合長勤続25年表彰に石倉寅夫氏や本町の各組合はその成績がよく、数多く表彰されている。

現在の本町各組合役員は次の様になっている。

第一組合長　土田義男（第三代目）
第二組合　解散
第三組合長　石倉寅夫（連合会長）
第四組合長　小中利保（第三代目）
仙法志納税貯蓄組合長　中川原智三

13. 文化団体

(1)青年団体

(イ)青壮組並びに青年団

この地域の青年会の誕生は仙法志字マオヤニ（第三部）に上田石松氏の提唱した仙法志青壮組がある。明治44年に年齢15歳以上の青年が40名、読書及び剣道そして救難活動を大正15年度の年間予算３万円であった。大雪被害、火災等の救難活動は目覚ましく、また、水産資源保護増殖の海中投石事業の実施など積極的な活動派当地において大きな存在であった。神社に「投石記念碑」を建立した。これが、仙法志消防組設置への機運を高め促したといわれている。

昭和10年の仙法志青年団の改組に至るまで「青壮組」の旗の下に一丸となった組員の勇敢な姿が見られた。

仙法志村青壮組初代組頭　上田石松

二代組頭　中島伍三

顧問　長谷川藤一郎氏他多数

昭和３年当時の組頭上田時代に仙法志神社裏に公園造りを神主常磐井武四郎氏などと相談し、組旗を立てて長谷川直松、下家善蔵、沢田武松、吉田島太郎、面野仁吉、蔦森勝二の各氏等が作業を続けたという。また、組頭中島時代の昭和６年に凶漁対策事業の投石作業を引き受けた。採石場所は上田倉庫周辺の岩石、屏風岩、神社裏の三ヶ所で一ヵ月以上（10月頃）かかり、秋田屋の潤の沖、上田家の沖、元村の沖に三半船五隻で投石した。発破ダイナマイト役は伊藤仁三郎、宮本鶴松の両氏で、団員伊藤惣吉氏ら多数で十数人１グループで担いだそうである。その時に形のよい１m半位の岩を屏風岩から発見し、記念碑を建立したのが昭和６年の秋のことである。さらに、この頃に青壮組は七夕祭りになると当時の映画劇場であった栄喜座で裁判劇の「継母子いじめ」を演出したこともあった。三等俳優（許可を得たという）野本吉衛、能登実、植木喜之、茶谷末雄、池端重二、上木市松、内海一治、駒井重蔵（２月２日死去、88歳）の各氏らで、刑事役に茶谷、婆さん役に能登氏で幕引きに八幡信和氏の賑やかさであったと伝えられている。現在は全員が死去し、懐かしまれる顔振である。

仙法志青年分団団長

初代　石倉喜七、二代　中島嘉春

三代　内海一治、四代　高橋道司

五代　沢田正道

昭和10年４月から小学校に青年学校が併置され本科、予科の５年間の昭和20年の終戦時まで継続し、軍事教育も目的とした。団員もまた婦人会、女子青年団の防空演習の指導者的立場であった。青年訓練大会なども開催され軍事一色であった。

(ロ)中央青年同志会

同会は終戦後の昭和21年（月日不明）に青年の自由意思によって本町の青年が男子48名、女子23名の計71名で結成された。青年自身の学習活動、音楽、演芸等文化活動、地域行事への積極的協力参加等の活動を展開し、地域住民の注目を集めたものだった。また、昭和26年の青年会館の建設には資格造成の為に演芸会、祭典青年樽神興、昆布拾い等に協力運動を展開し、神社道路中間西側に昭和26年に四方流れ二階造りで一階20坪の新築した。村内各地区に先駆けたものであった。しかし昭和30年代後半に入って会員の減少と意識の変化にともなって、活動の拠点である所の会館の維持が困難となり、本町自治会に譲渡した。自治会もまた維持できずに昭和50年代後半に取壊し撤去した。次に歴代会長名を列記する。

初代　沢田　敬一（25年10月死去　退任）

二代　原崎　竹治（同26年）商業

三代　下家　　巧（仙法志連合会長）

四代　武藤　満成（仙法志連合会長）漁業

五代　蔦森　　勝（仙法志連合会長）漁業

六代　会沢　照夫

七代　大島　正治（連合会書記）役場職員

戦後の20年代の初期には「あけぼの会」、「同級会」、「音楽サークル」等、経済文化の各活動が目的の会もあった。昭和40年代に入ってから自然消滅の状況となり、有名無実となった。従って青年団体の再編が叫ばれ、仙法志地区全般にわたる青年団体「仙法志はまなす会」が結成されたのは、昭和41年８月８日ことである。会員数130名で再び青年会は蘇ったが、過疎化による会員の減少と漁業者と公務員との意見調整が難しく、昭和50年までに自然消滅した。会員相互の親睦と教養を目的としていた。

初代会長　大島正治　役場職員

二代会長　上田紀宏　役場職員

三代会長　小中俊男　仙法志郵便局職員

次いで、昭和55年頃に結成された「山せの会」は会員15.6名で殆どが公務員の参加者で、当地域では、２、３名の会員である。最近、名称を「この指とまれ」に変更し一時期会長に工藤玲が就任した。この他に青年団体では漁組青年部があるが経済団体である。また、中川原潔氏の会長である「利尻町商工会青年部」はその趣旨が全く別なものである。はまなす会は再建への話し合いを数回にわたってなされたが最終的に実らなかった。

⑵婦人団体

㈠戦前の婦人会

既に報告の集落（部落）と殆ど変わらないが、この地区は旧仙法志の中心地の役場所在地ということからか会の幹部または中心となる人物で構成されている。先ず、戦前の婦人会からその役員を揚げてみる。

国防婦人会

分 会 長　東田トメ（44　昭和16年から）

副分会長　石倉のぶ（66　昭和11年から）、上田きよ（昭和11年から）、日比マサ（47　昭和11年から）、槇村ウラ、理事　中島勝三（43　昭和11年から）、井田ハルイ（34　昭和11年から）、監事　能登千代（34　昭和11年から）、評議員　川口やい（42　昭和11年から）、遠藤はる（38　昭和11年から）、中島やい（53　昭和11年から）、顧問　石倉良二（66　昭和11年から）、能登龍太郎（39　昭和11年から）、東田与三松（50　昭和11年から）

愛国婦人会

顧問　東田与三松（50　昭和16年から）、会長　東田トメ（44　昭和16年から）、幹事　石倉のぶ（66　昭和13年から）、書記　高橋英雄（40　昭和13年から）、評議員　井田ハルイ（34　昭和13年から）、井田ハルイ（34　昭和13年から）、川口やい（42　昭和13年から）、遠藤ハル（38　昭和13年から）、中島八重（53　昭和13年から）

大日本婦人会仙法志支部

支部長　東田トメ（愛国婦人会分会長）、副支部長　能登千代（国防婦人会監事）、竹村　桂（40）、顧問　東田与三松（愛国婦人会顧問、村長）、鈴木幸三郎（73　収入役）、能登龍太郎（国防婦人会顧問）、竹村海睦（44　仙小学校長）、槇村龍助（51　村医）、石倉喜七（45　郵便局長）佐孝友七（57　艀業主）、理事　高橋英雄（愛国婦人会書記公吏）、中島勝三（国防婦人会書記公吏）、川口八重（愛国婦人会評議員）、遠藤ハル（愛国婦人会、国防婦人会評議員）、伊藤信子（39　教員）、石倉のぶ（国防婦人会副分会長、愛国婦人会幹事）、参与常磐井武敏（神主）、西田熊三郎（53　水産物仲買業）、木谷精一（公吏）、沢田末松（40　漁業）、監事　中島八重（愛国婦人会評議員、国防婦人会評議員）、槇村ウラ（国防婦人会副分会長、愛国婦人会評議員）、審査員　井田ハルイ（愛国婦人会評議員）、中島八重、野本タキ（39）、長谷川キヨ（43）、安宅キノ（47）中川原操（40）（　）内数字は年令を表す。

仙法志（マオヤニ）班長、組長

班長　中島八重（監事）、副班長　遠藤ハル（理事）、第一組長　笹原サヨ、第二組長　安宅キノ（審議員）、第三組長　松本ヤツ、第四組長　面野トク、第五組長　竹田徳子、第六組長　川口八重（理事）、第七組長　長谷川キヨ（審議員）、第八組長　日比珠江、第九組長　紺リツ、第十組長　高橋トメ、第十一組長　野本タキ（審議員）

㈡戦後の婦人会

昭和18年以降は資料不足であり、同19年には各部落会の組織内に婦人会、仙法志班長を婦人部長として組入れている。昭和21年11月、由意思に基づく全村的な仙法志婦人会が誕生した。各部落毎に部長、理事、班長を置く組織作りを行い、本町会員は100名を越えた。昭和20年代の資料は無いが、他の資料から推測すると、組織、構成員は戦前と余り変わっていないようである。成人式、招魂祭等の積極的な協力参加が主な活動であったようである。同20年代の推測される役員は次の通である。初代会長中島八重（昭和34年まで）、初代副会長中川原操（昭和35年会長）。役員は三ヶ尻藤子、長谷川キヨ、中島ハル、上田キヌ、佐孝ゆき、上木律子等で27、28年から32年頃になって副会長に三ヶ尻藤子氏が入ったようである。この当時の役員は次の通りである。

会長　中島八重（村並町社会教育委員）、副会長　中川原操（町社会教育委員）、三ヶ尻藤子（町社会教育委員）、理事部長　日比珠江、理事　佐藤登美子、小林みちゑ、長谷川キヨ、井田ハルイ、駒井ミヨ、中島ハル、佐孝よそ、上田キヌ、野本タキ

この時代は会の運営に問題が起きて困難を極め

三役の交替となり、35年より運営実行の各委員を新しく設けて新発足した。会長　中川原操（4期12年間）、副会長　長谷川キヨ（3期9年間）、日比珠江、書記　佐藤とみ、会計　中川原操、監査　上田キヌ、運営委員　中川原操、長谷川キヨ、上田キヌ、中島ハル、駒井ミヨ、理事　佐藤とみ、小林みちゑ、中島ハル、駒井ミヨ，砂田京子、峨家トヨ、佐孝ゆき、実行委員、中村ツエ、宮本ミワ、杉田セツ、武藤ミツ、上木リツ

昭和38年からは副会長砂田京子、書記笹原礼子理事峨家トヨ、佐孝菊代の各氏の名前が出てくる中川原会長時代は同47年10月まで15年間続いた。

(ハ)組織の変更

昭和42年に沓形、仙法志両婦人会が合併し利尻町婦人団体連絡協議会が発足した。昭和47年11月から砂田会長体制に入ることになった。当時の記録によると、出稼者への慰問、成人式、浮島まつり、交通安全、招魂祭、敬老会、赤い羽、歳末助け合い募金、心配事相談、防犯等への協力参加が主な活動であった。また、利尻町文化協会設立に協力するなど幅広い活動をおこなった。学習活動としては華道、料理、俳句、ダンス、習字、編み物等のサークル活動や各種研修会への派遣参加など会員の教養、文化の向上などに努めている。

会長　砂田京子（利婦連書記）、副会長　上木律子（利婦連会計）、松本スエ（利婦連理事）、書記　三浦春江、会計　後藤英子、監査　峨家トヨ、宮本ミワ　実行委員に佐孝菊代、八木タカ

(ニ)代議員制

昭和51年11月17日、公民館において「仙法志婦人会結成30周年大会」が開かれたのを機に婦人会は組織を改めて各地域婦人会を単位として、協議制として代議員を設け運営することになった。これにより、本町は二つの婦人会に分かれた。

仙法志婦人団体連絡協議会

会長　砂田京子、副会長　上木律子、佐孝菊代、理事　石倉キミ、監事　八木タカ、書記　正部川純子、会計　後藤英子、代議員（一）佐藤静枝、正部川純子、代議員（二）佐孝信子、野本礼子

そして現在は次の通りになっている。

会長　砂田京子（第二会長）副会長　工藤良子、沢田ひとえ、会計　野本礼子（第二副会長）、監査　平野脩子（第二監査）、代議員（一）茶谷みよ（第一会長）、野陳信子（第一副会長）、五ノ治政江（第一副会長）、代議員（二）小練アヤ（第二会計）、中村玉枝、宮道静子、理事（一）池端トメ、畠山サツ、理事（二）三盃美智子

このように協議会役員は本町役員が殆どである本町第一は会員12名3班、第二は会員24名6班で編成している。協議会役員は利婦連の役員も兼ねてきて一人三役の兼任で運営されている。他の各単位婦人会は昭和55年頃から63年頃までに解散し消滅してしまっているので、仙法志婦人団体連絡協議会は本町第一、第二の婦人会で構成されているにすぎない。

(ホ)仙法志婦人防火クラブ

これは昭和57年頃から利尻消防署が本町婦人会に結成の要請をしたことに始まる。目的は婦人による火災予防普及の徹底及び防火意識の向上と火災の初期消火の適性を図り、事務局を仙法志分遣所に置いている。結成発足は昭和59年1月28日であるが、会員、役員の諸条件、即ち現在までの婦人会の経過事情を考慮し、暫定措置として、本町第一、第二の婦人会役員をそのまま移行した。しかし、現在は長浜を除く地域の婦人が加入し185名の参加者があり、20班構成となっている。

会長　沢田ひとえ、副会長　平野脩子、工藤良子、書記　古川文子、監査　佐藤静枝

おわりに

今号を以てマオヤニ郷土誌を終了する予定でいたが、旧仙法志村の歴史そのものを、物語る部分もあって次号で最終報告としたい。調査で御世話になった方は次号で掲載する。